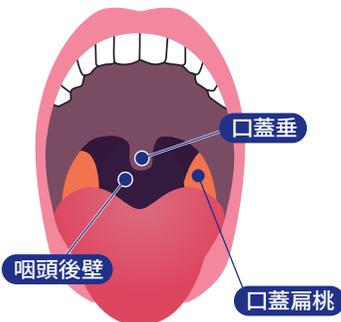


BD ベリター™ システム Strep A 【操作方法及び判定方法】

検体採取

咽頭ぬぐい液

綿棒を口腔から咽頭に挿入し、咽頭後壁、口蓋扁桃をしっかりと数回擦過します。この時、発赤や膿苔を呈している患部をぬぐいます。歯、舌、頬の表面及び出血している患部には触れないように注意してください。



咽頭所見



軟口蓋の燃えるような発赤が特徴
一般に低年齢層に多い型である



滲出性扁桃炎を示す症例
一般に、上記Aの例に比して年齢層が高い

参考:A群レンサ球菌(*Streptococcus pyogenes*)
感染症に見られる所見の例

【監修】医療法人 佐久間小児科医院 佐久間孝久先生

操作方法



1 GAS試薬1、GAS試薬2及びテストプレートを用意する。GAS試薬2のフタを開ける際、片手でしっかり持ち、もう一方の手でフタを外す。



2 GAS試薬1を3滴、GAS試薬2に添加し、検体抽出液として用いる。この時、抽出液の色が青色から黄色へ変わることを確認する。(青色が残存している場合は次の操作の前に使用する綿棒で軽く混合する。)



3 チューブに咽頭ぬぐい液を採取した綿棒を浸したまま、1~2分間静置後、綿棒をチューブ内で15秒以上上下する。



4 チューブを揉む必要はありません。むしろ粘性の高い成分が溶出し滴下した試料の展開が悪くなることがあります。



5 チューブに付帯のチップをかぶせるようにして装着する。装着が正しく行われた場合は、パチンと音がする。



6 チューブを逆さにして垂直に保持し、チップの先端がテストプレートの試料滴下部へ触れないように注意しながら試料を3滴添加し、その後5分間静置する。



7 試料添加後5分経過したテストプレートをBD ベリター™ システム リーダーに挿入し、液晶画面に表示された測定結果を確認する。

判定方法

図1 A群β溶血連鎖球菌陽性



図3 コントロールエラー#02



図2 A群β溶血連鎖球菌陰性



コントロールエラーの表示は判定部[C]が弱すぎる発色または判定部[N]が強すぎる発色を示していることなどを意味します。判定時間、血液や異物の付着、検体過剰採取などをご確認ください。

偽陽性を検証します

A群β溶血連鎖球菌に感染していないのに陽性のラインが発現する方がいます(偽陽性)。



判定部[N]は偽陽性の可能性を検証し、特異性を向上する役割を担います

ご使用の際は、添付文書をよくお読みください。

製品情報 www.bd.com/p/poct

製造販売元
BD 日本ベクトン・ディッキンソン株式会社
〒960-2152 福島県福島市土船字五反田1番地
本社:〒107-0052 東京都港区赤坂4-15-1 赤坂ガーデンシティ
カスタマーサービス ☎ 0120-8555-90

*BD、BDロゴおよびその他の商標はBecton, Dickinson and Companyが保有します。©2015 BD

BD ベリター™ システム Adeno 【操作方法及び判定方法】

検体採取

採取のコツ(乳幼児の場合)

「専用綿棒を口蓋垂の奥に挿入すると同部位の絞扼(こうやく)反応が起こり、咽頭部がぎゅっと収縮します。そこで綿棒を2~3回回転させると検体がよく採取できます。」

「Netterの解剖図(下図)※によると、発生学的に軟口蓋は外胚葉由来(赤色)、咽頭部は内胚葉由来(青色)の組織であり、アデノウイルスは内胚葉由来の咽頭部で、増殖すると考えられます。」

【監修】医療法人 佐久間小児科医院 佐久間孝久先生

1. 咽頭ぬぐい液

綿棒を口腔から咽頭に挿入し、咽頭全体(咽頭後壁、口蓋扁桃)をしっかりと数回擦過します。この時、口蓋垂を跳ね上げるようにして後ろの上咽頭まで拭きます。

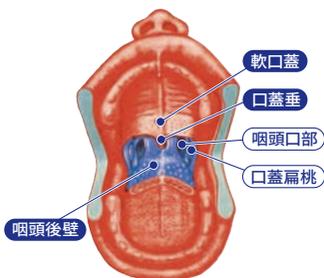
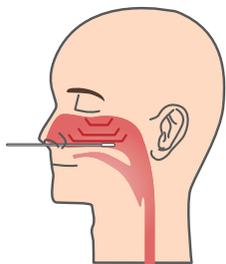


図. 新生児(36週)口腔と口峽※(哺乳時、一部改変)
赤色は外胚葉由来の部分、青色は内胚葉由来の部分を示します。
【参考資料】※ Frank H. Netter: CLINICAL SYMPOSIA, Vol.20 No.2 p60, 1979

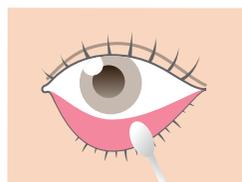
2. 鼻腔ぬぐい液

外鼻孔から耳孔を結ぶ線を想定し、正面から鼻腔底に沿って静かに綿棒を挿入し、行き止まりの最奥部(上咽頭)の数ミリ手前で止めます。鼻腔粘膜を軽く擦り、綿棒を回転させながらゆっくりと引き抜きます。



3. 角結膜ぬぐい液

綿棒で角結膜を強く数回擦過する。可能な限り多くの上皮を採取するように、炎症部分をできるだけ強く擦過すること。



操作方法



1 小分けチューブを取り出して、片手でしっかり持ち、もう一方の手でフタを外す。



2 検体を採取した綿棒を小分けチューブに浸し、内壁に沿って3回転させる。



3 小分けチューブを揉む必要はありません。むしろ粘性の高い成分が溶出し滴下した試料の展開が悪くなる可能性があります。



4 小分けチューブに付帯のチップをかぶせるようにして装着する。装着が正しく行われた場合は、パチンと音がする。



5 小分けチューブを逆さにして垂直に保持し、チップの先端がテストプレートの試料滴下部へ触れないように注意しながら試料を3滴添加し、その後10分間静置する。



6 試料添加後10分間静置したテストプレートを、速やかにリーダーに挿入し、液晶画面に表示された判定結果を確認する。

判定方法

図1 アデノウイルス陽性



図2 アデノウイルス陰性



図3 コントロールエラー#02



コントロールエラーの表示は判定部[C]が弱すぎる発色または判定部[N]が強すぎる発色を示していることなどを意味します。判定時間、血液や異物の付着、検体過剰採取などをご確認ください。

偽陽性を検証します

アデノウイルスに感染していないのに陽性のラインが発現する方がいます(偽陽性)。

判定部[N]は偽陽性の可能性を検証し、特異性を向上する役割を担います



ご使用の際は、添付文書をよくお読みください。